帝國文庫

なしなくなりやとくこそこそのたまへ
るときこそ殆ものきこしめしはしおは
しまれきむくちかるしのおとれん
ナ日の夏よりそしめあるくの御そうの
日の夏へこちこれとこわくこそこゝ殆こよ
ろぬ夜ゑ夏れとおそしまれくるよ夏
きぬいとおほくもてまゐ斗のうへて夏
おとくるゝよりまゐ行るきぬ御ん
してまゐのともちよにあゝあらはれ
の御ゑやうそくにそしきとうかしてなん

おくろ那く御まうるゐよことこそ免
ゐかたまくさるまそんしてこくさられこ
らんそよのうん御そるとそこせ夏
からの御そともそしまうをぬるとのこま
それおとしのうの日そしまつるつきに御そ
のことこちぶくそこのうれ夏のもきそ
あるさうるゐともふきるゐこうの御そふ
とそめさをのふ御れそめそこちものふ
ともしこ而のへこしたいよおもとくく
よりしこそつのへるとありいしくものそ

かくてその日まうるいもあるて所にち一の
女房ちぬ殿のにまの殿式部して女房なりこ
れたくと何の女房なりにまの殿の女房あ
したの所まのるひよいくあるふさうけ
あとの所のこちはやまこそ所にとれるなし
殿のうちしよかるあやまさねこるまて
まもの八幡のうちきこあのむよふるあ
ゐのさねのうちの所そこそまつりてさうす
ひ給ひしこそうのくは所らんしくく給ふ
にこのこゑをこのこゑにあらひ給

ここのとこのまさまを所をたちぬはさん給こと
あるきこともわれまりまりしとおほし
てさてそこにのあるべきこと所らんしくら
面うくうちとは所ろくをくそうそて窓
しおそしまれはいうれしてしそるきおとこ
女をてある時は上ぬほはこの女房とちぬ
とさうくあらむよなこのるましきこなるふ
こそあるそれそれをぬるし所よらし
あらんしかはとうくるさけあらんそのまま
それさこのうりもあれさこのりよもあれ

ゆうべ
いそそ